

トーナメント(団体)連覇

馬術・東都学生馬術大会

最優秀選手に森裕悟
標準障害飛越で優勝

東都学生馬術大会が4月2日から4日までJRA馬事公苑で行われ、標準障害飛越競技(団体)で見事優勝。

新チームで臨んだ今大会。中でも、富沢健悟監督が「上り調子」という森裕悟(商3・関東第一高)は、個人優勝こそ逃したものの、人馬一体となった走りで2位となり、チームを牽引した。

同時に行われた東都学生トーナメント競技大会でも団体で連覇し、森が最優秀選手に選ばれた。

今期も快調なスタートを切った馬術部。6月には関東学生馬術争覇戦、関東学生馬術大会の一番が控えている。華麗な走りで馬事公苑に旋風を巻き起こしてほしい。(日下石 聡子・文2)

【ニュース専修5月号15面】

世界選手権に永下、雲井出場 ラグビーU19

南アフリカ共和国のダーバンで行われたラグビーのU19世界選手権(3月27日～4月12日)に、専大から永下安武(商1・天理高)と、雲井雅明(商1・西陵商高)の2人が日本代表として出場。全24チーム中、過去最高の7位に躍進。専大勢がチームに貢献した。

3試合に先発出場し、1トライを決めた永下は「大会を通して力の差を感じた」と振り返った。

(川本 麻美・文3)

【ニュース専修5月号15面】

グリーンマシーン 課題が見えた アメフトオープン戦・川崎シリーズ

アメリカンフットボールのオープン戦・川崎シリーズが開幕。グリーンマシーンは5月5日現在、1勝1敗だが、試合内容は今後課題を残した。

初戦は4月18日、等々力公式野球場で行われた青学大戦。ファーストプレイで鹿島弘道(経営4・浦和学院高)がいきなりのインターセプトからTDを決め、幸先よく先制点を挙げた。これで勢いに乗り、21得点を挙げるがミスも多く、同点で前半を折り返した。

後半、流れをつかめず、ビハインドの状況に追いやられるものの、終了間際、根本知(経済3・日大三高)が値千金のインターセプト。これで得たFGを鹿島が落ち着いて決め、38-35で辛くも勝利を収めた。

第2戦は5月5日、同球場での帝京大戦。「プレーに連携がなかった」と試合後、平野恭雄監督が語ったように、この日は終始苦戦を強いられた。再三にわたるインターセプトや、後藤亨輔(商4・足立学園高)を中心としたランプレーで相手陣内を脅かすも、得点にはなかなかつながらない。逆に、相手のパスワークに翻弄され、21-27で惜敗した。(稲田 礼子・法3)

【ニュース専修5月号15面】

女子フルーレで2位 フェンシング・関東学生

関東学生フェンシングリーグ戦が4月18日から5月10日まで、駒沢体育館ほかで行われた。女子はフルーレで2位となったものの、エペは2部残留という結果に終わった。男子はフルーレ、サーブル、エペともに3位。

「チームは明るく、盛り上がりを見せていたが、惜しい結果となってしまった」と島村智博（経営3・東亜学園高）は悔しがっていた。6月の全日本学生王座決定戦が迫っている。彼らの活躍に期待したい。（矢口 蘭・文2）

【ニュース専修5月号15面】

男子 3勝2敗で1部3位、女子 2年ぶり1部復帰 アーチェリー・関東学生



▲部旗をバックに笑顔の部員たち

戦を終えた。

【女子】

2部Bブロック2位となり、入れ替え戦にコマを進めた。雨天の中、慶應大学アーチェリーレンジで行われた入れ替え戦は専大・早大・中大・東洋大の4校の戦いになった。東洋大が初回から飛ばし専大、早大、中大が追う展開でスタート。

専大は早大との熾烈な2位争いの結果、今期最高得点で早大を降し、2年ぶりに1部復帰を決めた(1位東洋大、2位専大、3位早大、4位中大)。

04年度関東学生アーチェリーリーグ戦が3月28日から4月25日まで行われ、専大は、男子が1部Bブロック3位。女子は5月9日の入れ替え戦で2位になり、2年ぶりの1部復帰を決めた。

【男子】

初戦の東海大戦は、僅差で落としたが、続く東京国際大との試合は、終始リードを保つ安定した試合運びで勝利。以降も好調をキープし、3勝2敗でリーグ

【ニュース専修5月号15面】